

# William Shakespeare's



## The Taming of the Shrew

Presented by the International Theatre Company, London  
Kobe Women's University, Suma Campus: Friday, 19 May 2006

Opening Time: 17:30

Performance: 18:00 to 21:00

Admission is free

2006年度 神戸女子大学(英語英米文学科)主催

— 英語演劇鑑賞の夕べ —

インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン公演

『じゃじゃ馬馴らし』(The Taming of the Shrew)

2006年5月19日(金曜日) 午後5時30分開場 午後6時開演

入場料無料

会場：神戸女子大学体育文化ホール

後援：学校法人吉学園神戸女子大学、ブリティッシュ・カウンシル、神戸市、神戸市教育委員会

協力：アシュリー・アソシエイツ

問い合わせ：神戸女子大学英語英米文学科 (受付窓口等詳細はチラシの裏面を参照して下さい)

## 『じゃじゃ馬馴らし』 (The Taming of the Shrew)について

イギリスが誇る世界的な劇作家・詩人であるウィリアム・シェイクスピア(William Shakespeare, 1564-1616)の喜劇のひとつ。フランコ・ゼップフェリ監督、リチャード・パートン、エリザベス・テラー主演の同名の映画『じゃじゃ馬馴らし』(1967年)が有名。

### 《あらすじ》

物語はいわば「さかさま」の喜劇といったところか。物語は男/女、上層/下層階級、支配/被支配者の逆転と乱痴気騒ぎを両輪に展開する。

物語はまず酔っ払いの鋳掛屋スライが居酒屋の女主人に追い出されることから始まる。(もちろんこの女主人も大変な「じゃじゃ馬」。)飲んだくれて野原で酔いつぶれているスライを領主が見つかり、館に連れ帰る。領主はこのスライを領主に仕立て上げ、小姓を女装させ領主夫人になりすまして、スライの反応を楽しもうと企てる。このさかさまの喜劇の中心はしかし劇中劇。領主がスライ(偽の領主)と自分の余興にと劇団に上演させるのが『じゃじゃ馬馴らし』である。この劇中劇もさかさまだらけ。

所はイタリアのパデュア。学者の卵ルーセンショーは大学で学問を究めるべくこの都にやってくる。が、そこで、バプティスタという地元の大金持ちの娘ビアンカという学問好きの美女に恋をする。想いを遂げるべく、従者のトラニオーに自分になりすまして、自分はビアンカに接近するため家庭教師になりすます。ところで、ビアンカとゴールインするために越えなければならないハードルが二つ。ひとつは恋敵(ホーテンショーとグレミオー)を出し抜くこと。もうひとつは、ビアンカの姉のカタリーナをまず誰かと結婚させること。(ビアンカとカタリーナの父親バプティスタにとってじゃじゃ馬のカタリーナは頭痛の種。この娘を何とか片付けたいと思っている。)この二つ目のハードルはホーテンショーの友人、ペトルーキオの出現によって解決を見る。ペトルーキオはカタリーナの持参金に魅せられ、彼女をなんとしても口説き落とすことに決める。破天荒なペトルーキオの饒舌と機転には名うてのじゃじゃ馬のカタリーナも圧倒され、心ならずも結婚の運びとなる。このカタリーナを文字通り手なずけることがペトルーキオの最大の目的となる。ペトルーキオは飴と鞭を使い分けカタリーナを何とか従順な妻に仕立て上げる。

一方、家庭教師に変装したルーセンショーはビアンカの心を射止め、素性を明かしてめでたくゴールイン。ビアンカの求婚者の一人ホーテンショーは彼女をあきらめ、金持ちの未亡人と結婚する。

3組のカップル(ルーセンショーとビアンカ、ホーテンショーと未亡人、ペトルーキオとカタリーナ)が集う物語のフィナーレ。元じゃじゃ馬のカタリーナが、夫に逆らうビアンカと未亡人に向かって「女は男に従うもの。それが自然の摂理」と説教をして幕となる。

「さかさま」状態が「自然」状態に落ち着いて物語は幕を閉じるわけだが、さて、このカタリーナの変身はなんだか説得力に欠けるのも事実。カタリーナの変身を夫を手玉にする利口な彼女の演技とみるか、はたまた、ペトルーキオの教育的成果と見るか—ここが演出の腕の見せ所である。

インターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン(ITCL)について  
ITCL(International Theatre Company London)は1980年にポール・ステッピングズによって結成された劇団。創立以来ポール・ステッピングズが役者のみならず芸術監督、演出家、脚本家として劇団の中核を担う。1992年に初来日。好評を博し、以来、文芸作品とシェイクスピアを中心に春季と秋季に日本公演を続けている。創作戯曲『ジャズの魔法使い』(The Wizard of Jazz)は1990年ミュンヘンビエンナーレ演劇祭で最優秀創作戯曲賞(イヴニングスター賞)を獲得、1996年にはギリシャのミュージック・フェスティバルにおいてITCL脚色の『白鯨』(Moby Dick)が優秀作品として選ばれた。

## 『じゃじゃ馬馴らし』についての特別講演会

講演者：藤田實先生 演題：未定  
場所：神戸女子大学A館411教室(予定)  
日時：5月12日(金曜日)13:00~14:30

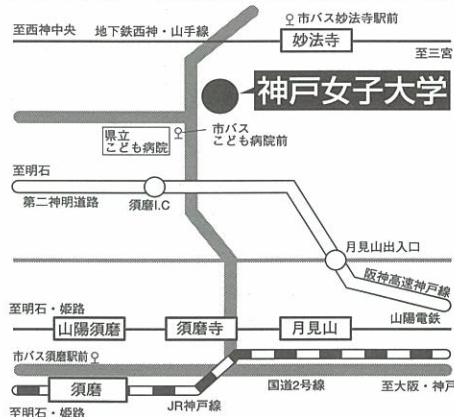
\*出席ご希望の方は当日に直接会場へ足を運んでください。  
\*講演の後、場所を移動して『じゃじゃ馬馴らし』のビデオ上映会も企画しています。

藤田先生は、大阪大学文学部、関西大学文学部の教授を勤められた、シェイクスピア演劇の著名な研究者であり、東京の「グローブ座」(グローブ座はシェイクスピアがエリザベス朝に活躍した劇場。近年ロンドンに再建され、当時の様式でシェイクスピア劇を上演している)の設立にも関わられました。本学には関西大学在職中から非常勤講師として出講していただいています。

### 『じゃじゃ馬馴らし』公演日時・場所・問い合わせ

- 場所：神戸女子大学体育文化ホール
- 日時：2006年5月19日(金曜日)  
午後5時半開場・午後6時開演(午後9時終了予定)  
\*終了時間が遅いため、終了時間に合わせて当日大学では大学から須磨駅までマイクロバスをチャーターします(無料)。JR、山陽電車ご利用の方、どうぞご利用ください。
- 問い合わせ：神戸女子大学英語英米文学科  
TEL.078-737-2542(湯谷研究室)  
e-mail: yutani@suma.kobe-wu.ac.jp  
問い合わせ期日：4月12日(水曜日)~5月16日(火曜日)  
問い合わせ時間：月曜から金曜まで(時間:10:00~16:00)

### 神戸女子大学への来校の仕方 (How to Get to KWU)



妙法寺駅から⑧「須磨一の谷行き」約15分。こども病院前下車徒歩約3分  
⑨「妙法寺行き」  
須磨駅から市バス⑩「多井畑厄神行き」約15分。こども病院前下車徒歩約3分  
⑪「北須磨団地行き」